

令和 8 年度 温品エルモ運営委員会 事業計画書

今年度の目標

・ 地域での認知度を高める
・ 事務員を常時配置し、誰でも気軽に立ち寄れる拠点にする。
・ 若い世代にも情報発信をしていくため、エルモのホームページ作成や SNS を活用した広報のさらなる充実を図る。

2 ひろしま LMO 運営助成金を活用する事業

1 事業名	ぬくしな水無月祭り	(13) 事業中 (1) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 6 月 13 日	
(2) 実施場所	広島市農業協同組合温品支店	
(3) 参加者数	500 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 温品エルモ運営委員会	
4 取組内容	祭り（納涼祭りという位置付け）の開催に向け、会議の開催案内やポスター等を作成する。 また、お祭りの衛生用品（ゴミ袋等）を購入する。 加えて、準備を手伝ってくれた方に謝礼や飲料を渡す。 ぬくしなのふるさとソング「温品きんさい音頭」を開会式で踊ってもらうよう女性会に依頼する。 当日は出店団体へごみ等の処理の伝達、開始式の司会と本部の業務を行う。終了時は出店団体と一緒に、駐車場の清掃とごみを廃棄業者に渡せるように準備をする。 なお、この祭りは 農協・はぐくみの里・体協・おやじ苦楽部・女性会・母子寡婦福祉会・育成会と協力して実施するものであり、飲食やヨーヨー釣りなど各団体が趣向を凝らした店を出店する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） ・ 地域住人同士の関係性の希薄化が進んでいると感じているため、誰もが参加できるお祭りを開催し、住人同士の交流を図る。 ・ 温品の伝統である「温品きんさい音頭」を次世代に継承することができる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） ・ 地域住人同士が顔の見える関係となり、コミュニティの活性化や地域の安全面の向上が期待される。 ・ 温品の伝統である「温品きんさい音頭」を次世代に継承することができる。	

1 事業名	子ども 1 1 0 番の家スタンプラリー	(13) 事業中 (2) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(9) 地域の防犯に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 7 月 1 9 日 ~ 令和 8 年 8 月 3 1 日	
(2) 実施場所	温品学区全域	
(3) 参加者数	4 5 0 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 温品学区青少年健全育成連絡協議会、温品エルモ運営委員会	
4 取組内容	(具体的に記入してください。)	
事前に承諾を得た「子ども 1 1 0 番の家」約 8 0 軒のうち 4 0 軒 (予定) にスタンプを設置する。また、小学生へチラシを配布するとともに 1 1 0 番の家にもポスターを貼り、参加者を募る。地域の夏休み期間中に小学生が友達同士や親子で「子ども 110 番の家」を歩いて回るスタンプラリーを行う。		
5 目的・効果		
(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 地域住民とこどもの関係性が希薄化しているため、その関係性づくりを目的とする。 また、こどもが有事の際の避難先を確認し、「子ども 110 番の家」にいる方との面識を作る。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 地域のこどもは地域で守るという意識の向上を見込む。また、こどもたちは自分たちが地域に守られているということを感じてもらうとともに、それに対する感謝の気持ちが育まれることを期待する。 また、こどもたちが「子ども 1 1 0 番の家」の場所を確認し、その場所の方との面識を作ることで、有事の際に避難することができるようになり、不審者対策に繋がる。		

1 事業名	温品川生き物観察会	(13) 事業中 (3) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(7) 地域の生活環境の整備又は美化に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>8</u> 月 <u>2</u> 日、 <u>10</u> 月 <u>13</u> 日～ <u>16</u> 日	
(2) 実施場所	温品公民館及び温品川（温品橋～第2神明橋の間）	
(3) 参加者数	<u>40</u> （8月）、 <u>80</u> 人（10月）人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 <u>温品公民館、ぬくしな桜の会、温品学区公衆衛生推進協議会、温品エルモ運営委員会</u>	
4 取組内容	（具体的に記入してください。） 以下の取組を8月及び10月の2回実施する。実施に当たっては、チラシやHPなどにより広報を行う。また、参加したこどもには、参加賞を配布する。 (1) 温品川（温品橋～第2神明橋）の河川及び川岸周辺のごみ拾い及び清掃 ぬくしな桜の会及び温品学区公衆衛生推進協議会と連携し、川のごみ拾い及び清掃を行う。 (2) 温品川の水生生物の観察会（温品学区の全体に関係する児童および家族を対象） 温品公民館と連携し、講師を招いて水生生物の観察会を行う。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 水害を発生させる可能性が高い温品川の実態を学区内児童及び保護者に広く啓蒙するとともに、親水河川としての環境を清潔に保つ（ごみのポイ捨て防止）ための広報を行う。 川に生息する水生生物を観察することで、川をきれいに保つという住民の意識の向上を見込む。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 温品川のきれいな水を維持するとともに水害に対する防災意識の啓蒙及び住民環境の衛生管理につながる。	

1 事業名	温品ふれあい盆踊り大会	(13) 事業中 (4) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(1) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和__8年__8月__1日	
(2) 実施場所	温品小学校第2グラウンド	
(3) 参加者数	300 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 温品エルモ運営委員会	
4 取組内容	地域の皆が参加できる盆踊り大会を開催する。 ・購入を予定しているものは、やぐら組み立てに必要な部材等である。 ・照明灯とごみ処理に関しては、業者に依頼する。 ・広報は町内会の回覧板、町内掲示板、HP、Instagramで行う。 当日は、司会等の運営を実行委員が担う。 また、プログラムのひとつである「温品きんさい音頭」については、皆で踊り、事前練習に参加した方々にアイスを配る予定。 なお、地域の各団体の出店や菓子巻き等により、お祭りを盛り上げる	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 温品きんさい音頭を踊ることや、祭りで飲食等をともにすることで、郷土愛の醸成を図る。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 住民同士の交流や各種団体の出店により、地域コミュニティの活性化が期待されとともに、伝統的な「温品きんさい音頭」を披露することで、伝統文化の継承に向けた間口が広がることを見込む。	

1 事業名	学校に泊まろう会	(13) 事業中 (5) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(5) 地域のこども及び子育て世帯への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 8 月 22 日 ~ 令和 8 年 8 月 23 日	
(2) 実施場所	温品小学校	
(3) 参加者数	70 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 温品おやじ苦楽部、温品エルモ運営委員会	
4 取組内容	夏休み期間中に小学生を対象に学校での宿泊を伴うイベントを行い、こども達への思い出作りを行う。各班にグループ分けをして、他学年との交流を促す。イベント中に実施する行事内容は以下の予定。チラシやHP、インスタグラム等により広報を行う。 ・こども達による飯盒炊飯とカレー作り ・校舎を使った肝試し ・体育館若しくは教室による宿泊 ・こどもたち全員で行うお楽しみイベント	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） こどもたちが楽しめるイベントを企画し運営する事により、こども達の地域での楽しい思い出を作ってもら。地域内でこども達の健全な育成を促進し、次世代の地域を担う人材を育成していく。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） こども達へのイベントを企画運営する事により、地域での楽しい思い出を持ってもらう事により、地域に愛着を持った人材が育まれる。この活動を通じて、地域のために活動する人材が増えることにより、固定化しつつある地域活動をするメンバーの拡充や、世代交代により地域の再活性化につながる。	

1 事業名	温品町民運動会	(13) 事業中 (6) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(2) 地域住民の健康の維持増進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 10 月 4 日	
(2) 実施場所	温品小学校 第2グラウンド	
(3) 参加者数	500 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 温品学区体育協会、温品エルモ運営委員会	
4 取組内容	・年齢に関係なく、参加しやすい競技を選定・実施する。 ・事前申し込みや当日の参加申込など、気軽に参加しやすい方法で参加を促す。 ・中学生に運営のボランティアや競技への参加を依頼している。 ・多くの方に参加していただけるよう、大会の最後にお楽しみ抽選会を開催する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） スポーツを通じて三世代の心身の健全な発達や健康の維持増進、交流の深化を目的とする。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 地域のつながりが希薄になっている現在、チーム競技を通し同じ町内に住む人の顔がわかるようになり、安心できる。また、三世代の心身の健康を維持増進することで、明るく元気なまちづくりに繋がる。	

1 事業名	温品学区クリーンアップ	(13) 事業中 (7) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(7) 地域の生活環境の整備又は美化に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 10 月 18 日	
(2) 実施場所	温品学区内、温品小学校、温品川	
(3) 参加者数	200 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 <u>ぬくしな桜の会、温品学区公衆衛生推進協議会、広島市立温品小学校 PTA、温品エルモ運営委員会</u>	
4 取組内容	(具体的に記入してください。)	
ポスターの製作及び掲示、ホームページでの広報を行い、当日は以下の内容を実施する。参加者に参加賞を配布する。 (1) 温品学区の通学路ごみ等収集及び小学校周辺の清掃等 温品小学校に集合し、主に各児童の通学路をごみ等の収集を実施する。通学路に出るに際しては、PTA 及び公衛協等の各団体の協力を得て、安全管理の徹底を期す。 (2) 温品川のごみ等の収集 川への投棄物の収集を行い、環境美化の向上を図る。		
5 目的・効果		
(1) 目的 温品学区のきれいなまちづくり意識の啓蒙及び川の良い環境を維持する啓蒙活動を目的とする。 また、地域住民が協力して学区内の清掃活動を行うことで環境美化の推進と地域住民の交流促進を図る。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。） 温品学区のきれいなまちづくり意識を啓蒙することで、きれいなまちを保持することができ、河川などのゴミが減り景観が向上する。 地域住民の環境保全への意識が高まる。		

1 事業名	とんど祭り	(13) 事業中 (8) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(11) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 9 年 1 月 10 日	
(2) 実施場所	温品小学校 第 2 グラウンド	
(3) 参加者数	500 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 温品エルモ運営委員会	
4 取組内容	・昔ながらの継承行事を若い世代にも知ってもらい、新たな担い手のきっかけづくりを行う。 ・昔遊び体験コーナーを設けこどもたちにも楽しんでもらうようにする。 また、はかま作り（とんどへ巻き付ける縄飾り）も行う。 ・当日の参加者に、お餅やお菓子等を振る舞う。 ・竹の切り出しや、とんどの組み立てなど、地域住民が結束して共同作業を行う。 ・開催に当たっては、チラシやポスターを制作し、広報する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 昔遊び（伝統文化）の若い世代への継承や、共同作業等を通じた住民同士の交流を目的とする。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 昔遊びを体験してもらうことで、古くからの遊びを受け継ぎ、伝統文化の継承が見込まれる。また、準備を住人が協力して行うことで、地域行事の運営方法等を学び、後継者不足の改善が期待される	

1 事業名	温品町民駅伝大会	(13) 事業中 (9) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(2) 地域住民の健康の維持増進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 9 年 1 月 24 日	
(2) 実施場所	温品小学校第 2 グラウンド～温品川一帯	
(3) 参加者数	400 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 温品学区体育協会、温品エルモ運営委員会	
4 取組内容	開催に向け、ポスター作製や競技用品等の購入を行う。また、当日は参加者へぜんざいを提供し、少しでも寒さを和らげてもらう。 なお、この駅伝は 5 人 1 組であり、小学生の部、中学生男女の部、大人の部それぞれで、温品川周辺を走るものである。参加者に参加賞を配布する。加えて、陸上のトップ選手を招待して、参加選手のモチベーションをあげる予定。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 駅伝を通じて、あきらめない心や団結力の醸成、体力増進を目的とする。また、温品川の周りを走ることで、温品の風土を感じてもらうとともに、地域住人の応援に触れ、郷土を愛する気持ちも醸成する。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 健康の維持増進が見込まれる。また、こうした行事を通じて地域の温かさを確認することで、大人になってからも住みたいという気持ちが芽生え、担い手不足の解消が見込まれる。	

1 事業名	広報誌発行	(13) 事業中(10) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(14) (1)～(13)に掲げる活動の地域内外への情報の発信に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 7 月 1 日 ～ 令和 9 年 3 月 31 日	
(2) 実施場所	温品学区全域	
(3) 参加者数	10 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 <u>温品エルモ運営委員会</u>	
4 取組内容	広報誌「エルモ温品（ぬくぬく）通信」の発行を年 1 回行う。 （掲載内容） ・ LMO の事業計画報告、予算決算報告 ・ LMO の行事 ・ LMO の取組など	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） LMO の事業、行事、取組を周知することで、LMO に興味を持ってもらうとともに、地域行事に参加する人数の増加を目的とする。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 広報誌の発行により、LMO の P R に繋がり、LMO に係る担い手の発見や、行事の参加者数の増加が見込まれる。	

1 事業名	温品ほっこりカフェ（＾＾♪	(13) 事業中(11) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 4 月 1 日 ～ 令和 9 年 3 月 31 日	
(2) 実施場所	温品公民館（他）	
(3) 参加者数	250 人/月（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 温品学区母子寡婦福祉会、温品エルモ運営委員会	
4 取組内容	温品ほっこりカフェ開催に向け、実行委員会を立ち上げる。事業の開催案内や取り組み内容について打合せをする。 心も体もいきいきするには声を出すことが大切であるため、ギターを弾き、キーボードの伴奏に合わせて、皆で一緒に歌う。 机やいすの並べ方、お茶・お菓子の容量を確かめる。 開催案内やポスターを作成する。地域の活動団体にも声掛けをする。 参加者の枠にとらわれず世代を超えたお楽しみ交流会を開催する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 地域住民や地域の多様な主体が我が事として参画し、地域の資源を活かして、人が世代や分野を超えてつながることで住民一人一人のくらしと生きがいを共に創っていく。地域の方々が交流できる交流会を開催し、つながりを作る場の 1 つとする。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 住民の主体的な支えあい、暮らしに安心感と生きがいを生み出す。 地域の資源を活かし、暮らしと地域に豊かさを生み出す。	

1 事業名	温品学区自主防災広報活動	(13) 事業中 (12) 事業目
2 特定地域共同活動の分	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 4 月 1 日 ~ 令和 9 年 3 月 31 日	
(2) 実施場所	温品学区全域	
(3) 参加者数	7,000 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>温品学区自主防災連合会、温品エルモ運営委員会</u>	
4 取組内容	温品学区自主防災連合会では、現在、地域住民が主体となって、災害時の対応や防災活動を強化するため、地区防災計画を作成している。 この計画の作成に当たり、温品学区地域住民の防災意識を向上するため、ポスター・掲示用シールの作成・地区防災計画の製本などを行う。 また、年に数回集会所で大学の教授を呼び、ワークショップを行い、地域住民の防災意識を高めていく。	
4 目的・効果	(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 地区防災計画の作成により、防災意識の向上及び温品地区の事業者との協定締結を行う。これに当たり、地域住民が防災に対する意識を高めてもらうこと、地区防災計画を作成していることを知ってもらうことを目的に、ポスターや掲示用シールの作成を行う。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 災害発生時の避難 (指定避難所)、自宅災害時の注意点を明確にすることにより、住民の命を守る効果がある (自助・共助を説明)。ポスターや掲示用シールで広報することにより、地域住民が防災に興味を持つきっかけとなる。	

1 事業名	温品水害碑 100 周年行事	(13) 事業中 (13) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 9 月 5 日か 9 月 6 日	
(2) 実施場所	温品集会所	
(3) 参加者数	50 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 温品学区自主防災連合会、温品エルモ運営委員会	
4 取組内容	大正 15 年（1926 年）に起きた温品村土砂災害から 2026 年は 100 年目にあたるので、その様子を伝えた紙芝居と復興中の写真のスライドショーを住民の方に見てもらう。 また、住民の方に防災アンケートを実施する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 大正 15 年の水害発生後 100 年をむかえ、次世代に水害の恐ろしさを伝えて風化させないため。 また、地区の防災活動を行うにあたって、地元住民の防災意識と準備がどのような状況か知るため。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 水害発生後 100 年をむかえ、その後は発生していないが、地域の居住者に防災の備えをしないといけないという防災意識の向上が見込まれる。	

3 自主財源で実施する事業

年月日	事業名	特定地域共同活動の分類	取組内容
令和 8 年 12 月中	紙門松配布	なし	伝統の神門松を配布する。